

## 成長への情熱、そして仲間がいること

8学年主任

新8年生のみなさん、進級おめでとうございます。クラス替えもあり、また新しい気持ちで4月を迎えたことと思います。私は、みなさんと一緒にこの福大附属に赴任してきたこともあり、とても親近感があります。この学年の所属となり、何とも言えない緊張もしていますが、新鮮な気持ちで学校生活を送っていきそうです。

昨年度は9学年を担当していました。学級のメンバーは実に個性的な方々で、生活の記録に何が書いてあるのか、教室ではどんな会話があるのか、何かある度に何かが起こり、結構毎日楽しみを見つけながら生活していました。おそらく生徒の皆さんも楽しく過ごそうと努めていました。しかし、受験や思春期という自分自身でも掴めないような悩みを抱える時期ですから、もちろん楽しいことばかりではなく、「周りが見えること、悩みに気づくことも成長した証なんだね」と話したこともあり、今は、附属を巣立ったメンバーの活躍を心から願っています。この3年間の入学と卒業時を比べると、身体と心の成長ぶりには驚かされるものがあり、成長の可能性を秘めた3年間と言えるでしょう。こんな風に少し先のことも想像しながら、毎日を大切に過ごしていきたいです。

進級にあたり、ある社会貢献活動のスピーチで出会った言葉を紹介します。一つ目は「成長への情熱」です。人が成長するには何が必要か？本人を取り巻く家族や、設備などの環境も大切だが、本人が成長したがる気持ちが最も大切ということだと、私は解釈しました。二つ目は、大きなプロジェクトや起業の成功例を分析した際の共通点は「始めたときに、1人ではなく仲間がいたことだ」という言葉です。

これらを私達に照らしてみましよう。

「成長への情熱」成長への意欲はあるか、なければ一緒に生み出しましょう。進級を機に、自分自身に問いかけてみましょう。

「一緒に活動する仲間がいること」日々の授業や学校生活、学年プロジェクトではグループワークも多く、合意形成力や状況判断力などのスキルを身につける機会は、求めればたくさんあります。ある卒業生は「以前と違って相手の気持ちを考えるようになったから、自分の意見の伝え方も考えて、そこに難しさがあった」と振り返っています。相手のことを考えられる段階に成長しているからこそ、自分自身の力を伸ばせたのではないのでしょうか。

実はこのスピーチとの出会いは随分と前なのですが、ここで紹介した理由は、附属に赴任して早々、校訓「自主協同」を見ているうちにこのスピーチを思い出し、世界的な社会貢献活動から我々の身近な生活にまで当てはまる尊い校訓だと感じたからです。

私達の討論や活動の中で、幾度となく登場する「自主協同」。「自主」とは何か、「協同」とは何か、これから生活していく中でその価値に自ら気づいた時に、私達の「自主協同」が本物だと言えるような気がしているのです。

これから1年間、共に成長していける学年となるよう、よろしくお願いいたします。